おやこであそぼう

絵本と、わらべうたの時間
2019年 12月18日

☆～　今月のうた　～☆

♫ここはてっくび
ここは　てっくび　てのひら
ありゃりゃに　こりゃりゃ
せいたかこぞうに　いしゃこぞう
おさけわかしの　かんたろうさん

♫ おおさむこさむ
おおさむ　こさむ
山から　こぞうが泣いてきた
なんといって　泣いてきた
寒いといって　泣いてきた
おおさむ　こさむ
おおさむ　こさむ

☆～　今月の絵本と紙芝居　～☆

＊紙芝居　よいしょよいしょ（童心社）作・絵：まついのりこ
＊クリスマスには　おくりもの（ 絵本館）作・絵：五味太郎
＊さんかくサンタ（ 絵本館）作・絵：ツペラ ツペラ
＊まどから　おくりもの（ 偕成社）作・絵：スギヤマカナヨ
＊ おおさむ　こさむ（ 福音館書店 ）作・絵：こいでやすこ
＊ おおさむ　こさむ（ 偕成社）作：松本みよ子／絵：遠藤てるよ
＊クリスマスのふしぎなはこ（ 福音館書店） 作：長谷川摂子／絵：斉藤俊行
＊わらべうたであそびましょ！（のら書店）作・絵：さいとうしのぶ
＊あぶくたった（ひさかたチャイルド） 作・絵： さいとうしのぶ
＊ろうそく　ぱっ（アリス館） 作・絵：みなみじゅんこ

☆～　クリスマスリース　～☆

リースの起源は古く、古代ローマ時代にも遡り、花や葉などで作られた装飾用の輪のことで、お祭りやお祝い事で冠として身につけられていました。冠は太陽の象徴で、ローマ人にとっては特別なものだったようです。

古代オリンピックで、勝者に月桂樹のリースが贈られたことは、みなさんもご存知だと思います。ですからキリスト教に由来するものではありません。

その後各地に広まり、常緑樹で作られるリースが出てきました。冬でも青々と茂った緑を思わせるリースは「豊穣」や「繁栄」を象徴しています。

やがて時代を経て、キリスト教にも取り入れられるようになりました。キリスト教では柊のリースは「キリストが十字架にかけられた際にかぶっていたいばらの冠」を表し、クリスマスリースとして飾るようになりました。

クリスマスリースは輪の形であるため、終わりも始まりもなく、永遠の愛を意味しています。また冬でも緑である常緑樹が豊年満作を、赤いヒイラギの実や姫リンゴが太陽を、月桂樹や松ぼっくりが生命力を表しています。

ヨーロッパではクリスマスは1月6日の公現祭（キリストが異邦人の前に現れた日。2018年1月17日のプログラムにもちょっと出てきます）まで続くので、クリスマスリースはキリスト降誕祭と新年のお祝い両方で使われるようになります。さらに魔除けの意味もあるそうです。確かに葉にはトゲがあり、悪魔も寄り付きそうにありませんね。

そういえば日本では、 ヒイラギに焼いた鰯の頭をさして、節分の日に玄関に飾るという風習があります。洋の東西を問わず、難を避けたい、封じたいという思いは同じなのですね。

今年は「令和」の時代が始まり、どんな時代になるか、希望や夢が膨らむ年でもあり、また一方では、秋には台風や大雨で各地に大きな被害がもたらされた年にもなりました。

みなさんにとって、新しい年が、さらに豊かで健康でありますよう、
そして家族仲良く過ごせますようお祈りしています。

よきクリスマスのひと時を！

次回は

2020年 1月15日（水）

お問い合わせ
クリスト・ロア修道会
TEL０４２（４６５）８６２０